



高良山の頂上をめざして！

令和4年10月21日
篠山保育園 園長 足立善一郎



さわやかな秋空の下、元気もりもりで山登りができました。目標は、一人の脱落者もなくみんなで励まし合い、登りきることです。どんな山登りだったかお伝えします。

AM9:30—観光バスに乗り保育園を出発！車の中では少々興奮気味。おしゃべりに花が咲いていました。



AM9:50—登山口に到着。記念撮影し登山開始。街の雑踏からはなれ、山の静けさと澄み切った空気を全身に受け、山道ですれ違う登山者に「おはようございます」という声にも、みなぎる力を感じまし



た。遅れてくる仲間に「がんばれコール」で励まします。道中、不気味な門が出現！鬼がでてきそうな雰囲気。園長が代表して門の様子を見に行きました。心配してくれた子どもたちに、鬼などいないことを伝えることができました。おとぎ話の世界です。駆け足で登る子どもたちも少々息切れも。そんな時、1回目のお茶休憩場所に着きました。

「足が疲れた」と言っていた子も、「力が戻った」と復活していました。

AM10:20—第1関門の高良大社駐車場に到着。「やったあ」「もうすぐゴールかな？」。これからラストスパートです。第2関門の森林つつじ公園の駐車場を目指します。売店横の北面コースに入り、森林つつじ公園に向かいます。このコ



ースは、先程の山道とは違い道幅も狭くなっています。「シーン」とした雰囲気に「なんか不気味ね！」という声も。これからは1列になって進みます。狭い道の横はすぐに崖です。子どもたちの危険察知能力が最高潮になります。「みんなあ 道の横は崖だよ！



と伝達が飛び交います。進んでいくと今度は目の前に大きな木が倒れて道をふさぐ状態になっていました。「台風のせいだよ」と詳しい子がいます。倒木の横や下をくぐって通過して行きました。

「おや 道が分かれているどっちだ？」看板を見ると“森林つつじ公園”への矢印がありました。この辺りに来ると、「まだかなあ、おなかすいたあ〜」という声も聞こえてきました。



AM11:00—お日様の光が木々の隙間から差し込んできたかと思ったらそこは森林公園だったのです。「やったあ！」森林つつじ公園の駐車場に着きました。そして久留米の街を眺め自分達たちが歩いてきた山の高さを実感した瞬間でした。



「わあ たかい〜！」「きれいね」の歓声！その後、公園の方に移動してまずは空腹を満たすために、「おべんとう」です。みんなの顔が、ほころび、「おいしいなあ おいしいなあ」と言いながら食べていました。



AM11:30—遊具も何もない森林つつじ公園でしたが、子どもたちは“こおり鬼ごっこ”をして楽しんでいました。草陰や木々の陰に隠れながらの鬼ごっこは、園庭とは違って「わくわくどきどき」感が倍増しているようでした。



PM12:30—下山。来た道を帰ります。ここで園長からみんなに元気づけのためにキャンディを一つずつ。「げんきがでたあ！」と大切に食べてくれました。帰りは、どんぐりや木の実など自然物の採集をしながら帰ります。どんぐりは落ち葉の下に隠れていて、見つ



けるのが大変でしたけれど子ども達の研ぎ澄まされた集中力でたくさん集めていました。

PM1:35—高良大社駐車場に到着。なんとここにお迎えのバスが！ほっとする瞬間でした。帰りはここからバスに乗ります。車中の会話も、早速今日の思い出を語り合い盛り上がりつつありました。バスの中から、眼下に見える街をみて「わあこんなに高いところまで歩いてきたんだ」と改めて驚いていました。そして、「夢の中へ！」



PM2:00—保育園に無事到着。

山登りを終えて



日頃から鍛えた体力と精神力を思う存分発揮した子ども達、そしてみんなと遊ぶ楽しさを知っているばら組さん。登山の途中遅れている友達の所に行き一緒に登ってくれている子、「がんばれ」と声をかけ、励ましている子、たくさんのほほえましくそして友だち思いの素敵な光景を見ることができました。固定遊具などがなくても、自然の中で自分たちの遊びを見つけ出し、よりおもしろいものへと考えている姿もありました。ばら組さんの年になると、いろんなことを考えられるようになり、ひとつひとつ一生懸命にやっているようすが伝わってきます。とにもかくにも、ばら組さんが最後まで歩けたことに大拍手です。

